

議長記者会見（第45回）会見録

日時：令和5年3月16日（木）

午後2時30分から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室

会見を行う石田議長（右）と不破副議長（左）



それでは、今定例会を終えて、所感を少し述べさせていただきます。

初めに、馳県政の、この1年についてであります。

馳知事は、この1年間、県内全市町の訪問をはじめ、県内各界各層の意見を聞くとともに、北陸三県知事の連携を推進しました。さらには、国政にも県の声を届け、G7教育大臣会合やトキの放鳥候補地の選定につなげるなど、その行動力をもって成果につなげてきたものと思います。

また、奥能登で頻発する地震や、加賀地方を中心に県内各地に大きな被害をもたらした大雨災害においても、危機管理対応を無難に行ってまいりました。

今後とも、県議会との対話はもちろん、県民の声に真摯に耳を傾けていただき、職務の遂行をお願いしたいと思います。

次に、令和5年度当初予算の議決についてであります。

今定例会では、馳知事として初めての通年予算編成であり、その内容はご自身が言われるように、「石川県成長戦略」の先取りできるものを最大限盛り込み、「幸福度日本一の石川県」づくりを目指して、対前年度比1.0%増となる6,170億円余の令和5年度当初予算案となりました。

具体的には、知事の公約や得意分野を反映し、教育や福祉、文化、スポーツ分野で施策を充実させており、また、デジタル化やグリーン化を積極的に推進しようとしたものとなっております。

さらに、経営指導員の配置や里帰り出産支援など、人に対する投資にも意を用いており、中小企業や農業などに対する伴走支援なども進めております。

我々議会としても、本県の更なる発展につながるよう執行部としっかりと議論を積み重ね、先ほど本会議で可決をいたしましたところであります。

しかしながら、今予算には、例えばEBPMなど、一般県民には聞きなれない横文字もあり、今後、施策の内容や効果などを県民にもしっかりとわかりやすく説明するとともに、血の通った予算執行を心がけ、目に 見える成果をあげることが重要であります。

そうした中で、県民や事業者の方々にも、いろいろな実情があろうかと思えます。今後、議会ははじめ、県民や現場の声にも丁寧に耳を傾け、必要に応じて事業の見直しも行っていただきたいと思えます。

次に、今定例会を振り返ってであります。

今ほどもお話ししました、石川県成長戦略の策定や、基本目標の「幸福度日本一」に関連した質問など、予算の柱立てを中心に様々な質疑がなされました。

北陸新幹線関係では、県内全線開業を1年後に控え、並行在来線や、開業後の敦賀での乗り換え、現ルートでの京都府内での早期の課題解決や米原ルートに関する質問がありました。

また、電気料金をはじめとした物価高騰対策については、事業者、労働者双方の観点から、賃上げをはじめ、各種支援策など、

少子化対策・子育て支援については、市町の子育て支援策や、保育の質の向上など、

学校教育については、公立夜間中学の開校や、35人学級の推進 など、

ほかにも、トキの放鳥や、デジタル化(DX)・グリーン化(GX)の 推進、いしかわ百万石文化祭2023、断水対策など防災・減災対策についてなど、多岐にわたり議論がなされました。

執行部においては、今定例会での議員からの質問の趣旨を踏まえた上で、今後の施策の実行や予算へ反映していただくとともに、

県議会としても、引き続き、物価高騰などに対応した経済対策をはじめとした様々な施策が、機を逸することなく実行できるよう、県民の安全と安心な生活に向けて、全力で取り組んでいきたいと考えております。

また、今定例会中に可決された意見書についてであります、
「意見書等調整会議」におきまして、調整等された結果、各会派から
提案のあった8件の意見書のうち、「学校給食の無償化制度の構築を求める意見書」など
4件が可決されました。

可決された意見書4件については、議会としていずれも国へ要望するものであり、国会及
び関係行政庁へ提出することとしております。

また、本日、議員提案で、「石川県議会の保有する個人情報の保護に関する条例」及び「石
川県議会委員会条例の一部を改正する条例」、2本の条例案が提出され、いずれも可決され
ました。

それぞれの条例の内容は、個人情報保護法の改正に伴い、議会において、個人情報の適正
な取り扱いについて、自律的な対応を図るため、新たに制定したものと、非常時においても、
議会機能を維持し、その役割を果たすため、デジタル技術を活用し、委員会の審議にオンラ
インで参加できるよう改正したものであり、今後とも、議会として、条例の適切な運用に努
めたいと思います。

今定例会は、議員にとって今任期中最後の定例会でありました。議会では、この4年間、
コロナ対応をはじめとして、我々議員は、様々な制約を余儀なくされながらも、議会活動を
行い、取り組みを進めてまいりました。

この4年間の取り組みについて、まず、議会改革に関しては、委員会での情報機器の活用
を推進するため、タブレット型ノートパソコンを導入しました。また、先ほども話しました
とおり、委員会のオンライン出席を可能とする条例改正を行いました。

議員提案の政策条例については、県民の皆様の様々な意見を取り入れながら議論を重ね、
「主要農作物種子条例」の制定と、携帯電話の所持に関する「いしかわ子ども総合条例」の
一部改正を行い、また、「新型コロナウイルス感染症と『新しい生活様式』に関連する政策
提言」を取りまとめ、知事に提出しました。

また、開かれた議会となるよう広報活動にも努めてまいりました。

平成26年度から開催し好評を得ております「ふれあい親子県議会教室」については、新
型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和2年度から2年間中止にいたし
ましたが、今年度は3年ぶりに開催し、多数の方に参加をいただき、大変好評でありました。

このほか、今任期中には、金沢港クルーズターミナル、国立工芸館、新県立図書館が開館
しました。いずれの施設にも多くの方にご来館をいただき、賑わいの創出と憩いの場として
も、大きな役割を担っていると感じております。

次に、私は次期県議会議員選挙には出馬せず、今任期の満了をもって、議員生活を終える
こととなりますが、今、議員としての32年を振り返ると、その思い出は尽きませんが、
この32年の期間の中で、特に印象に残っていることについて手短かに申し述べたいと思
います。

まず、平成9年1月に日本海で起きたロシアタンカー「ナホトカ号」沈没事故であります。

多くの重油が流出し本県へ漂着しました。重油回収に多数の方にボランティア参加をいただきましたし、環境ホルモンの影響の懸念からも、当時、私も2度にわたり、本会議で質問に取り上げました。

次に、平成25年3月の能登有料道路の無料化であります。のと里山海道として、能登・加賀間の人流・物流活発化に大きく貢献しました。議会では、早期の無料化について、声を上げてまいりましたが、そうしたこともあり、10カ月の前倒しにつながったのではないかと考えております。

さらに、県民皆さんの長年の念願でありました平成27年3月の北陸新幹線の金沢開業であります。移動時間の大幅な短縮により、首都圏との交流が活発化し、観光産業の活性化ばかりでなく、各方面で本県に大きな効果をもたらしたことは、今更言うまでもありません。

8期32年にわたる私の県議会議員としての期間の大部分は、谷本前知事とともに歩んできましたが、はじめは、中西元知事、そして、現在は、馳知事と、3代の知事にわたって議員を務められたことは、感慨深いものがあります。

最後になりますが、4月の県議会議員選挙において見事当選を果たし、次期任期の議員となられる方には、県民の負託に応じて、県政の様々な課題の調査・研究はもちろん、県民の多種・多様な意見、要望を丹念に聞き、知事・執行部にしっかりと伝えるとともに、議会における十分な議論を通じて、県の施策へ反映させ、ひいては本県の一層の繁栄・発展と県民の福祉の充実につなげられるよう、是非とも頑張ってくださいたいと願っております。

私からは、以上であります。

<質疑応答>

記者

議会改革でオンライン委員会導入すると、これは大きな一歩かなと。今回、非常時、災害対応ということですが、議長から見られて、今後、なり手不足問題も関わってくるかと思うんですが、例えば、女性ですとか、育休とかも含めて、今後、対象を拡げていくのがいいのか、どうか。

石田議長

男女平等の観点に立ちまして、男性も協力できるようにしていかなければと思います。今回、女性の候補者が増えておりますけれど、いいことだなとっております。

記者

議会改革というの、基本条例を作って、それでいろいろ動いてきておりますが、選挙

の投票率とも関わってくると思うんですけど、議会の役割をうまく見せていく、例えば議会報告会とか、委員会単位でやっているところもありますが、取り組みは。

石田議長

各選挙区に対して、ほとんどの方が議会報告をしていると思います。少なくとも各議会ごとに年4回やっている方もおります。そこはきちんとやっていると思っております。

記者

議員個人としての県政報告会もそうなんですけれど、議会としてのまとまった、例えば、委員長が出て1回どこかでやるとかは。

石田議長

それは、議会報告として議会ごとに皆さんに、今までなかったが、やっています。ふれあい親子県議会教室もやり始めております。たくさん希望者がおりまして、これもいいことだなと私は思います。

記者

改革というものに関しては、絶えず。

石田議長

前向きにやっていかなければならないですね。

記者

不破副議長にも一言いただければと。

不破副議長

この4年間でですけど。ほぼほぼコロナだったなあというところですかね。そこは、ボリュームも含めて、緊急度も含めていろいろ重たいものがあつたと思っています。おそらく一人ひとり聞いても同じような感想を言われる議員は多いと思いますが、特に初期の頃は右往左往した部分がありましたので、そういう中で、例えば、県民宿泊割とか、最初ときは専決でやったが、当時谷本知事が専決でやりますよと、内々には議会にも、ありましたが、そういったスピード感も求められる中であつて、議会も、普通なら専決でということに対して「議会軽視だ」といってもおかしくないんでしょうけど、コロナの緊急度の高い時でもあつたので、皆さんいい決断やなあという感じで思ったのも、非常に印象深いことの一つです。

あと、主要作物種子条例に関しては、僕が中心になってやる形になったものですから、これに対して結構、執行部は嫌がっていたんですけど、県の責務のところは絶対譲らないと、盛り込んだ部分は、頑張れたのかなと、これは個人的な話ですけど、そういうこともあります。

最後の1年は、馳知事になりまして、1年間は前年度の谷本知事が作った予算の執行という部分はありましたけれど、新年度予算に関しては、特にDX・GXあたりは、強めに打ち出されていますので、これからの目の前の景色がどう変わっていくのかという部分が、楽しみでもあると思っています。まあ、変なふうにならないようにチェックは、していかなければと思っています。いい流れになると思いますが、そういう意味では、議会の役目は、動きがある分、次の任期の議会の役割は重いと思っています。

以 上